



企業紹介

新日本理化株式会社

木村芳明*

1. 会社概要

名称：新日本理化株式会社
 New Japan Chemical Co., Ltd.
 創立：1919年(大8)11月10日
 資本金：50億円
 代表者：取締役社長 服部 雅光
 従業員：570名
 売上高：350億
 所在地：
 本社 / 〒541 大阪府中央区備後町2丁目
 1番8号 備後町野村ビル
 TEL 06-202-0624
 本店 / 〒612 京都市伏見区葎島矢倉町13
 番地
 TEL 075-611-2201
 東京支社 / 東京都中央区日本橋3丁目12番1
 号 三木ビル
 TEL 03-273-1701
 研究所 / 〒612 京都市伏見区葎島矢倉町13
 番地
 TEL 075-611-2201
 工場 / 京都工場 〒612 京都市伏見区葎島矢
 倉町13番地
 TEL 075-611-2201
 徳島工場 〒771-01 徳島市川内町榎瀬
 1番地
 TEL 0886-65-0321
 川崎工場 〒210 川崎市川崎区浮島町7
 番地2号
 TEL 044-288-3275

関連会社：

(国内) 日新理化株式会社, 理化ハーキュレス

*木村芳明 (Yoshiaki KIMURA), 新日本理化株式
 会社, 調査開発, 技術情報の調査, 収集

株式会社, 千葉脂肪酸株式会社, アルベス
 株式会社

(海外)

泰同化学工業株式会社 (韓国)

Proton Chemical., Inc. (フィリピン)

Henkel Rika Sdn. Bhd. (マレーシア)

上場証券取引所：大阪, 京都証券取引所

事業内容：油脂・脂肪酸製品, グリセリン, エ
 ステル, 高級アルコール及びその誘導体,
 可塑剤, 界面活性剤, アニリン・3級アミ
 ン, 酸無水物, 有機ゲル化剤, その他化
 品の製造販売。

2. 会社の沿革

- (1) 創立期 (1919年[大8]~29年[昭4])
 大阪酸水素株式会社を創立し, 水の電気分解
 による酸素・水素の製造販売を開始した。次い
 で水素を使用して魚油の硬化油を製造し, 硬化
 油工業への展開を図った。
- (2) 発展期 (1932年[昭7]~34年[昭9])
 資本金の増資を行い, オレイン酸・ステアリン
 酸, 高級アルコール, 浸透剤, アルコール系
 中性洗剤の製造を開始した。
- (3) 戦時期, 戦後直後 (1943年[昭18]~49年[昭
 24])
 鐘淵油脂工業と改称し, 局方グリセリン, 局
 方圧縮酸素を製造し, あいつぐ増資を行った。
- (4) 戦後の発展期 (1950年[昭25]~80年[昭55])
 高压水素還元設備が完成し, 1951年塩化ビニ
 ル用可塑剤, ヤシ油脂肪酸エステルの高圧還元
 による高級アルコールの製造を開始した。1963
 年にシクロヘキシルアミンの製造を目的に徳島
 工場が竣工した。1964年東燃石油化学コンビナ
 ートに川崎工場が竣工し, 可塑剤の製造量が飛
 躍的に増加した。また, 京都工場に油脂連続分
 解装置が設置された。1967年に新日本理化株式

会社と改称した。1968年に京都工場内に研究所が竣工した。1969年に新技術開発事業団より有機性新ゲル化剤の開発を委託され、有機性新ゲル化剤試作工場が完成した。1973年に可塑剤の製造を目的に日新理化が竣工した。1979年に日本油脂、旭電化工業との共同出資会社「千葉脂肪酸」を設立し、工業用ステアリン酸の生産能力を強化した。1980年ハーキュレス・インコーポレイテッドとの共同出資会社「理化ハーキュレス」を設立し、ロジン誘導体の製造・輸入販売を開始した。

(5) 81年〔昭56〕から現在まで

1982年に京都工場内に新研究所を増築し、1985年に川崎工場に二塩基酸系可塑剤の製造設備、1986年有機新ゲル化剤製造設備の増設が完成した。1981、85、88年に増資を行い、資本金は現在50億円となっている。

3. 当社の製品紹介

当社は、水の電気分解による酸素、水素の製造に始まり、水素の使用による魚油硬化油の製造、さらに脂肪酸の製造、水素を用いた脂肪酸エステル還元による高級アルコールの製造、高級アルコールのエステル化によるフタレート可塑剤の製造と発展した。

エステル還元等により培われた独自の水素化技術をより発展させ、ニトロベンゼンの水素化によるアニリンの製造、アニリンの核水素化によるシクロヘキシルアミンの製造、各種芳香族アミンの核水素化による脂環式アミンの製造、脂肪族3級アミンの製造と展開してきた。

またグリセリンを中心とした多価アルコール製品を拡充すべく、ブドウ糖の水素化によるソルビットの製品化を行い、さらにソルビットから有機新ゲル化剤を生みだした。

一方カルボン酸を拡充すべく、無水マレイン酸とブタジエンのディールスーアルダー反応により、テトラヒドロ無水フタル酸類を開発し、さらに技術に磨きをかけるだけでなく、新たな技術開発を目標として独自の酸化技術によるテトラカルボン酸の製造にチャレンジしている。以下に当社の製品の概要を紹介する。

(1) 油脂・脂肪酸

各種硬化油、牛脂脂肪酸、ステアリン酸・オレイン酸など。

- (2) 飽和・不飽和・分岐高級アルコール
ラウリルアルコール、ステアリルアルコール、オレイルアルコール、2-オクチルドデカノールなど。
- (3) 多価アルコール、環状アルコール
グリセリン、ソルビット、フルフリルアルコール、水素化ビスフェノールAなど。
- (4) 界面活性剤
アルキルサルフェート、ポリオキシエチレンアルキルエーテル、アミノオキシドなど。
- (5) 各種アミン
アニリン、シクロヘキシルアミン、脂肪族3級アミンなど。
- (6) ジカルボン酸
テトラヒドロフタル酸無水物、ヘキサヒドロフタル酸無水物、無水コハク酸など。
- (7) 可塑剤
ジ(2-エチルヘキシル)フタレート、ジイソノニルフタレート、ジイソノニルアジベートなど。
- (8) テトラカルボン酸
ジフェニルスルホンテトラカルボン酸、ブタンテトラカルボン酸、エチレングリコールビストリメリテートなど。
- (9) その他化成品
ジベンジリデンソルビトール、リカラノーなど。

4. 研究開発と新規事業

- (1) 当社は創立以来70年の歴史の中で、常に新技術の開発と化学工業の発展に取り組み、広範囲な分野にわたって貢献している。あらゆる産業界のニーズに応え、高度でユニークな技術を生かし、油脂工業のパイオニアとして今後も高機能スペシャリティ製品の開発に挑戦し、化学の可能性を探求していく方針である。
- (2) 技術開発により生まれた新製品
 - ① 新素材関連：独自の酸化技術によりDS DA、DSDC、BTC-Wが生みだされ、ポリイミド、ポリアミド、ポリエステル等

の樹脂原料として市場開発中である。

- ② 高分子関連：有機新ゲル化剤をさらに改良したゲルオールDHが独自技術で開発され、ポリオレフィン樹脂の透明性改良、成形速度の向上等に役立っている。
- ③ 自動車関連：ゴム軟化剤の開発を進め、耐寒性を必要とするスタッドレスタイヤなどに使用が期待されている。
- ④ 情報関連：半導体・各種電気部品の封止

樹脂に使用されるエポキシ樹脂の硬化剤として、各種の酸無水物が開発されている。

- ⑤ 建築関連：特殊エポキシ系可塑剤によりマーキングフィルムの透明性、耐熱性の向上が期待される。また、塩化ビニル用練り込み型帯電防止剤、帯電防止型軟質塩化ビニル用可塑剤が、クリーンルーム間仕切り用カーテン・床材などに使用されている。

以上

